

2018年5月14日

2017年度決算説明会 質疑応答集  
(5/10 17:15～ 日本証券アナリスト協会)

- ◆ 現状、生産はフル稼働とのことだが、想定以上の需要増により、今期見込んでいる投資等の固定費に影響するのか？
  - 人海戦術から自動/省人化への投資がメイン。想定以上の売上増による固定費への影響はない。
- ◆ 今期見込む投資コストは、来年度の利益率アップに貢献するのか？
  - 車載分野は、車載カメラ用の自動ラインの導入に加え、ASEAN 展開による収益構造の改善が今後のポイント。今後、階段式で利益率をアップしていく。
  - FA 分野は、多品種少量であり、工夫の積み重ねによって、毎年じわじわと利益率をアップしていく。
- ◆ FA 分野の足元の状況は？
  - スマホ設備向けで減速感がある。スマホ設備以外においても、過剰発注となり、在庫調整している顧客があるが、顧客の出荷量に大きな変化はない模様。
- ◆ 深圳工場の車載カメラ用の自動ラインの稼働はいつ頃か？また、他の工場も同様に自動化を進めるのか？
  - 深圳は現在最終段階にあり、今月末に稼働予定である。他の工場においても、今後自動化を進めていく予定。
- ◆ China+1 としての、アセアンの新工場の場合は決定したのか？
  - 方向性は決まっているが、まだご報告出来る段階に至っていない。
- ◆ 今期、車載カメラでのコネクタ数量を 20%増としているが、売上ベースではどの程度か？また、市場の伸びや今後のシェア拡大についてはどうか？
  - 2017 年度が 69 億円。今期は数量 20%増、金額ベースでは 10%増+ $\alpha$ と見込んでいる。
  - 市場も 20%+ $\alpha$ の伸びと考えるが、比較的安価なものの割合が増えている。当社は、高付加価値なデジタル製品にシフトしながら、グローバルシェア 20%程度を維持していく。
- ◆ 車載カメラのデジタル化に伴う、他社との競争関係は？
  - デジタル製品は、従来のアナログのビュー用カメラと比較して、技術的に一段上。実績のあるメーカーが優位であるため、当社にとっては追い風と考える。

以上